



5月29日(木曜日)

佐賀新聞

(第三種郵便物認可)

依存症の視点 報じているか

寄稿



ASKA容疑者が東京と福岡の検事官と会談している様子(左)とASKA容疑者(右)のカラー写真

佐賀県警が昨年摘発した覚せい剤事犯は82件89人、大麻事犯の摘発は13件8人で、覚せい剤が全薬物犯罪の9割近くを占めた。覚せい剤の再犯率は60.9%で、依然として高い常習性をうかがわせている。

覚せい剤事犯の摘発のうち暴力団員は40人で全体の58%を占め、過去5年では最も高い割合になった。年齢別では10代が4人摘発され、こちらも過去5年で最も高い比率になっている。

県内でも薬物依存症へのケアは受けることができる。小城市小城町の県精神保健福祉センター＝電話0952(73)5060＝では、精神科医や保健師による相談に加え、依存症に悩んでいる人たちの家族らが集う情報交換会も月1回のペースで開催されている。神埼郡吉野ヶ里町の肥前精神医療センター＝同0952(52)3231＝は専門的な治療に取り組み、佐賀市の佐賀タルク＝同0952(28)0121＝でも相談を受けている。

(林大介、吉丸翔太)

県内の薬物犯罪 覚せい剤関連9割

社会的に抹殺される怖さ

ASKA容疑者の薬物問題

佐賀タルク代表 松尾 周

覚せい剤取締法違反で逮捕されたASKAさんの報道が連日、ワイドショーや新聞、週刊誌などで繰り返されていきます。1年ほど前から週刊誌が薬物問題を報じていたこともあり、「ああ、やっぱり逮捕されるまでもめることができなかったか。この人も病気のただな」と感じました。

薬物依存症リハビリ施設「佐賀リARC(タルク)」を運営し、目、耳、鼻、舌、皮膚科、泌尿器科など、多くの診療科と関わっています。「依存症」という言葉を毎日耳にする私からすると、やっけて、殺れ果てたASKAさんの

姿は、タルクにたどり着くまでの依存症患者と変わりません。異なるのは、彼が有名なアーティストということと、社会的に大きな影響を及ぼしてしまっていることです。

ワイドショーなどの報道を見ていると、「依存症」という言葉は、ほとんど出てくるとはなりません。「一緒に逮捕された女性の素性やASKAさんの過剰な行動、CDの販売停止。快楽を求めた自己中心的な行為、往復を繰り返すこと、無気味な報道のあり方に違和感があります。この人、これで終わりたい」と、社会的に抹殺されていく怖さを感じます。

覚せい剤取締法違反の罪で、人気歌手「CHAGE and ASKA」のASKA(本名・宮崎重弘)容疑者が逮捕され、さまざまなメディアが取り上げている。社会的に反響が大きいため、芸能人の薬物使用や、一連の報道をどう見るべきなのか、薬物依存症からの回復を支援する民間施設「佐賀DARC(タルク)」代表の松尾周さん(45)に寄稿してもらった。(林大介)



まつお・あかし 薬物依存症リハビリ施設「佐賀DARC」代表。依存症患者の回復を支援する活動に加え、学校での講演活動など若者の薬物乱用防止にも取り組む。佐賀市。

Read

読み解く



薬物依存症
のびた

こんにちは、薬物依存症のノビ太です。

今回のニュースレターは宮崎のギャザリングの事を書きたいと思いま
す。

6月13、14、15日に、2泊3日で宮崎のギャザリングに皆で行っ
てきました。前日に雨が少し降っていたので天候が少し気になりましたが、当日
は曇り空。雨が降らなかつた事にハイパーパワーを少し感じました。

宮崎のギャザリングには50人から60人の仲間が集まりました。僕は人見知りをして
しまうタイプなので自分からハグや握手をするのが本当に苦手なのです。さらにやっか
いなのが人と話をすることも苦手で、何を話せばいいのかわからなくなります。でも、
このギャザリングで一番良かったことは色々な仲間達との出会いや、たくさんフェロー
シップがとれたことです。

ミーティングではキャンドルミーティングや仲間達のバースデーミーティングがあり

Drug Addiction Rehabilitation Center

ましたが、心に残るミーティングはテーマが「希望」でのミーティングです。

このミーティングは事前に番号の書かれた紙を渡され、司会者がクジを引き当たった番号の人が話をするというミーティングで僕は「4」番を持っていました。

僕は60人もの方がいるから絶対に当たらないと思っていました。

だけど僕の考えは甘かった。なんと「4」番のクジが引かれてしまい頭の中はパニック！普段のミーティングでさえ話がまとまらないのに60人もの方前で話をするなんて。



1分も出来たのですが大勢の方前で話をする機会など、めったにないと思い話をしようと思いマイクを手にしたのですが、頭の中はもの凄くパニック！！けっきょく3分ぐらいで話を終わらせてしまいました。

これは絶対にハイパーパワーだとおもいます。ギャザリング最終日は雨が少しパラパラと降りましたが、無事にギャザリングを終えることができ色々面で勉強にもなりました。

薬物依存症 こうじろう

こんにちは、薬物依存症のこうじろうです。

またもや施設を飛び出してしまいました。

京都の施設に居た頃から通算するとこれで3回目です。

今回は10日ほどで帰ってきました。

もう帰る事はないだろうと思って飛び出したんですが、まさかこんなに早く帰って来るとは思いもしませんでした。飛び出す度に後悔して、何度も同じことを繰り返して全く学習しないこの有様はまさしく滑稽だと思います。

帰ってきた時も全然やる気がなくて「行くところがないから」といった理由で仕方なく帰ってきたような感じで、1週間くらいは「つまらないなあ」というような気持ちで毎日何もせずに過ごしていました。

しかし施設長から「施設移動を考えている」という事を聞かされてやらざるを得ない状況になり泣く泣くプログラムをやり始めました。

やってみると案外おもしろくて、毎日意味なく過ごしていると感じていたものが一転有意義な生活に変わり始めました。

自分はやる前から「こんなことやってなんの意味もない」とか「めんどくさい」と言ってやろうともせずに悶々としていただけでした。やれば難しいことなんか無いし、自分で勝手に難しく考えていただけのように思えます。

今は施設の生活が最高に楽しいとまでは言えませんが、少なくとも前のような生活ではないし、その時よりも楽しいと言い切れます。

まだ自分は薬が止まって1カ月ちょっとほどですがめげずにがんばっていきましょう。



薬物依存症
つよぼん

こんにちは依存症のつよぼんです。
梅雨に入り雨が良く降り、じめじめして、洗濯物は乾きにくいし、生臭いし全く嫌になりますよね、テンション下がりますよね、でもそんな季節に、私は生まれたのです。



51歳の誕生日を迎え今回は私の51年を振り返りたいと思います。

若い頃は50才になったら仕事も引退しのんびり暮らそうと思っていました。だから50才までは一生懸命働いてやろうと考えていました。そうして家庭の為と自分に言い聞かせながら自分なりに働きました。

それで家庭の事、子供の事はすべて妻に押し付けて男は外で働いて金を稼いで来れば良いのだと思っていました。

だから仕事を優先させて家庭は二の次にしていました。そんな中、事故にあい歩けなくなりました、医者からは歩けなくても人生楽しい事が有るからと言われ、私は自暴自棄になり妻に当たり散らしていました。

そんな事に妻は耐えられなくなり離婚する事になりました。それで私の考えた事はやっぱり、金を稼ぐ事の出来ない男は役立たずなだけと考えるようになりなした。

そして、私をこんな体にした人が悪い、神様が悪い、と恨むようになり生活も荒んでいきました。



そんな中、でもやっぱり歩きたいと思うようになり、あれだけ恨んでいた神様にお願いする自分がいました。相変らず自己中だと思えます。

でも、そんな私でも神様は見捨てないでいてくれました。

そのお陰で歩けるようにもなり、仕事も出来るようになり人生を取り戻した、かのように思いました。

それが、すべて自分以外の力だとは考えもしないで、すべて自分が頑張ったからだ、そんな考えですから薬物を使う事も言い訳を並べて使っていました。

そして使い続ける中、依存症になり生きて行く事も死ぬ事も出来なくなり、自分ではどうすることも出来なくなり、施設に助けを求めてきました。

そんな私を、ダルクの仲間達は笑って受け入れてくれました。

そんな仲間達に51才の誕生日を祝ってもらいました。

今までの自分の人生の中で一番嬉しい出来事です、言葉は出ず、目から涙があふれでて本当に嬉しくて、嬉しくて仕方がない、そんな誕生日でした。

それからしばらくして北海道ダルク10年フォーラムに連れて行ってもらいました、でもフォーラムが始まり一番大事な話しの時に私は居眠りをしてしまいました。



その事を一緒に来ていた仲間に見られていました、恥ずかしいことですね。その後は起きましたが、時すでに遅く、フォーラムも終わりがけでした、又、やらかしました。

その時はそれ位にしか思っていませんでした。

その後は北海道のメンバーとも会いNAミーティングにも参加させてもらい、色々な話しを聞かせてもらい、私は驚きでした。北海道のNAミーティングは物凄く元気で活気がありました。何時も仲間がミーティングは自分の為にやるんだと言っている意味が解ったように思えました。



ミーティングが終わり北海道のメンバーも一緒にご飯を食べながら話しをしながら感じた事は、みんな真剣に回復の事を考えているんだなと思いました。自分は今、施設で暮らさせてもらって居るのですが、プログラムでもそこまで真剣に取り組んでいるかな？と考えてみるとやらされているように思っている、意識が明らかに私と違う事にきづかされ恥ずかしく思いました。

仲間はそんな私にその事を自分の肌で感じて欲しいと思って、私をわざわざ北海道まで連れて来てくれていたのだと思います、そんな仲間の気持ちもその時の私には解らずに居ました。

私は美味しいスープカレーが食べてよかったくらいしかなく、明日は何処に行けるのかな？と楽しみでした、翌日は、ジンギスカンを食べて、次の日には小樽に向かう道中で北きつねにも出会い、お昼からホタテクラ丼を食べさせて貰い小樽のミーティングにも参加させてもらい帰る前にはテレビで見るような凄い温泉にも連れて行って貰い、本当に楽しませてもらいました。でも今これを書きながら思う事はあの時は本当に観光気分でしかなかったです。

でも今施設に帰って来て思います、これからはもっと真剣に自分の回復について取り組みたいと

薬物依存症

M

私がDARCにつながるまでに「これまで施設経験が2度もあるのにまた1からプログラムを受けなきゃいけない」なんてとても受け入れる事ができませんでした。

ただこのままではいけないと自分のなかでいろんな思いが葛藤しながらも、以前入寮していた施設へもう1度入寮させてもらえるようお願いをしたのですが・・・答えは「自助グループには行ってるの？自助グループに参加し続けてそれでも駄目だったら話を聞くよ」「Mは施設のプログラムを終えたのだからまた戻ってきても意味がない、そのプログラムを今度は自分で使ってほしい」でした。

やる事もやらないでただダメになったら施設へ逃げ込む・・・安易な考えですよ。周りには一生懸命にやってもダメで施設につながりたくてもつながれない仲間もいるのに、そんな人達に失礼だし、申し訳ない事をしていたんだと思います。

「以前はやっていたんだ」「以前はできていたんだ」、と高慢になる材料が、STAFF研修に入ってから「できない自分、同じミスを繰り返す俺」を少しずつ認められるように成ると、そんなことが恥ずかしく思える様になってきています。ありがとうございました。アディクトMより。

